

世界は大きく変わろうとして、そのたえず揺れ動く大きな振動を、そこに生きるものの中に伝えていく。ベトナム人民の大きな力、また世界の平和を求める力の前進によって、ついにアメリカの侵略軍は、大きく後退せざるを得なくなった。ベトナム戦争にともなって、アメリカ経済が均衡を失ない、ポンド・ドルの危機は、いわゆる「金恐慌」となって、ヨーロッパを、世界を襲ったのである。ポンド・ドル危機はやがて去ったかに見えたが、それは再びフラン危機として現われ、国際通貨問題は決して解決などして、現代の資本主義を根底から揺さぶる大きな問題として、動きつつづけていることを示している。一方、社会主義国においては、チェコ事件が生まれて社会主義の新しい姿がいかにあるべきかが重要な問題となっている。また世界的に進行しつつあったインフレーションと不況の同時発現であるスタグフレーションは石油ショックによって決定的なものとなっている。

現代が大転換の時代であることについては、もはや眼をふさぐことはできないのではないだろうか。秋は現代という時代を病める地球の時代と呼んでいるが、それは人間をとりまく環境・自然、それらが余りにも短い期間のうちに大きく激変し、人間はその激変する地球全体に感じきれなくなってきたと考えられるからである。もっともこの地球の激変をもたらしたのは、主として人間であって、その人間のつくりだした技術・現代

文明なのである。

人間は第二次大戦によってすすめられた大工業生産により、地球上の有限なエネルギー資源を掘りすすめ、石油の産出量はあと二十年ほどで減少する、あるいは使用限度に来ると考えられている。しかもそれに代るべき、有害ではない、安全な、クリーン・エネルギーといわれるものの開発には、五十年を越える年月が必要であるという見通しが、ごく最近原子力物理学者、生物学者によって出されている。これは人類の前に現出した大きな深淵であるといえる。この深淵をはたして人類は渡りきれぬだろうか。またこの深淵の底に沈められている難問をさぐりだし、それを解ききることが出来るだろうか。

私はこのような人類が直面している難局は、人類のつくりだした現代文明によってもたらされたものである故に、現代文明の危機とよんでいるが、現代文明の危機のなかに人間はおかれているのである。石油産出量は減りつつあるが、人類はかかるとなるエネルギーを用いることが可能となるのである。Xエネルギー危機は現代文明の危機の一つである。二十一世紀を南く、なや

現代文明の危機とは何か。それは我々がこれからは、他のところにも書いてきたが、できる限り簡略に書こう。現代文明の危機は三本の根幹より成っていると考えられる。その第一は、核戦争の問題、核兵器・核実験の問題、核産業をそのシンボルとする現代の大工業生産の巨大な進展によって生み出されてくる環境破壊・汚染（公害）の問題である。

現代文明の危機とは何か。それは我々がこれからは、他のところにも書いてきたが、できる限り簡略に書こう。現代文明の危機は三本の根幹より成っていると考えられる。その第一は、核戦争の問題、核兵器・核実験の問題、核産業をそのシンボルとする現代の大工業生産の巨大な進展によって生み出されてくる環境破壊・汚染（公害）の問題である。

二十一世紀を南く、なや

